

⑰ 公開特許公報 (A)

昭56—53555

⑯ Int. Cl.³
H 02 K 9/06
19/22

識別記号

府内整理番号
6435—5H
7509—5H⑯ 公開 昭和56年(1981)5月13日
発明の数 1
審査請求 未請求

(全 7 頁)

⑭ 車輛用交流発電機

⑮ 特願 昭54—129429

⑯ 出願 昭54(1979)10月9日

⑰ 発明者 志賀孜

刈谷市昭和町1丁目1番地日本
電装株式会社内

⑮ 出願人 日本電装株式会社

刈谷市昭和町1丁目1番地

⑯ 代理人 弁理士 浅村皓 外4名

明細書

1. 発明の名称

車輛用交流発電機

2. 特許請求の範囲

(1) 車輛用交流発電機にして、

概ね円筒状の周壁及び該周壁の両端面方向端に夫々備えられた第1及び第2の端壁を有していて内部に空間を画定せるハウジングであつて、前記第1及び第2の端壁の各々にはそれを貫通して吸入口が備えられ、前記周壁にはそれを貫通して軸線方向に互いに離隔せられた第1及び第2の吐出口が備えられ、該第1の吐出口は前記第1の端壁に貫通して位置せられているとともに前記第2の吐出口は前記第2の端壁に貫通して位置せられているハウジングと。

前記ハウジングの周壁と実質的に同心円関係をなして前記第1及び第2の吐出口間ににおいて該ハウジング内に配備されたステータコアを有するステータと、

前記ステータコアと同心円関係をなして延在す

る回転可能な軸であつてその外周面と前記ステータコアの内周面との間に環状空間を画定せる軸と、

前記軸の外周面と前記ステータコアの内周面との間の空間内に該軸と同心円関係をなして該軸に回着せられたロータと、

前記ロータの軸線方向一端と前記第1の端壁との間で前記軸に回着せられた第1のファンであつて該軸の回転時空気を実質的に半径方向外方へ及び前記ロータへ向う軸線方向へ送風せしめる第1のファンと、

前記ロータの軸線方向端と前記第2の端壁との間で前記軸に回着せられた第2のファンと、を有し、

前記軸が回転せられる際前記第1のファンは前記第1の端壁に設けられている前記吸込口を通して空気を前記ハウジング内空間に導入せしめるとともに該導入せられた空気の一部を前記第1の吐出口を通して、及び機部を前記第2の吐出口を通して前記ハウジング内空間から夫々吐出せしめ、

また前記第2のファンは前記第2の端壁に設けられている前記吸込口を通して空気を前記ハウジング内空間に導入せしめるとともに該導入せられた空気を前記第2の吐出口を通して前記ハウジング内空間から吐出せしめるよう構成されていることを特徴とする車輌用交流発電機。

(2) 特許請求の範囲第1項記載の車輌用交流発電機において、前記第1のファンが渦流ファンで構成され、前記第2のファンが遠心ファンで構成されている車輌用交流発電機。

(3) 特許請求の範囲第2項記載の車輌用交流発電機において、前記渦流ファンが平らな板状材料であるベースプレートと、該ベースプレートから折曲げられて形成された羽根とを有し、該羽根の数が前記ロータのボールコアの爪数に対応している車輌用交流発電機。

3. 細明の詳細な説明

本発明は車輌、特に自動車に用いられる交流発電機に係り、より具体的にはその車輌用交流発電機の冷却効率向上のための構造に係る。

に設けられた吐出口19から、その軸受4を冷却しつつ外部へ流れせしめられる。

一般に、自動車用交流発電機の各構成部品の上昇最高温度は、ステータコイルで約140°C、ダイオードファインで約90°C、ロータコイルで約80°C、軸受及びブラシで各々約60°Cである。

上述した従来の交流発電機では、外部より吸いられる冷たい空気は、軸受5、ダイオードファイン12及びブラシ13に最初に接触せられるがため、これら部品に対する冷却性は比較的よい。しかしながら、ロータコイル17及びステータコイル18には、それら軸受、ダイオードファイン及びブラシを冷却した後のあたたまつた空気流が接するため、それらコイルに対する冷却性は低く、軸受4にいたつては、他のあらゆる部品を冷却した後の空気流が接するため、その冷却性は極めて低い。即ち、部品の上昇最高温度の低い順に沿つて冷却用空気流を渡せば冷却効率は良くなるが、実際上部品をそのような順序に配直変えることは不可能である。更に、ステータコイル18の発熱量が最も高

まず、従来の車輌用発電機の欠点について第1図を参照して説明する。第1図に示される通り、従来の車輌用交流発電機はハウジング1の両端壁2及び3に夫々配備せられた軸受4及び5に回転可能に支持せられた軸6を有し、その軸の一端部は端壁2から突出せられていて、その突出せられた一端部にエンジンにベルト(図示なし)を介して連結されるペリット7が固定され、そのペリット7と端壁2との間に遠心ファン8が軸6に固定せられている。軸6が回転せられると遠心ファン8が回転せられ、それにより冷却用空気は第1図中矢印9で示すごとく、軸受5に接続して端壁3に設けられた吸込口11を通りてハウジング内空間へ導入せられ、その際その軸受5を冷却し、軸受5を冷却した後ダイオードファイン12及びブラシ13を冷却し、その後ロータ14のボールコア15の爪間及びそのロータ14とステータ16との間の間隙部を通り、その際そのロータ14のロータコイル17及びステータ16のステータコイル18の表面を冷却し、軸受4に接続して端壁2

いにもかかわらず、冷却用空気の大部分はロータのボールコア15の比較的断面積の大きな爪間を流れ、断面積の小さなロータとステータとの間の間隙部へは少量の空気しか流れず、しかもステータコイル18の表面に沿つてしか流れず、そのステータコイルの内部まで充分冷却することはできない。加えて、冷却用空気は回転するロータのボールコア15の爪間、及びロータとステータとの間の狭い間隙部を通りたため通風抵抗が大きく通風流量そのものを大きくすることができます、これによつてもステータコイルの冷却を充分に行うことはできない。このようにステータコイルの冷却効率が低いとそのコイルの抵抗が高くなり、結果として大きな発電機出力が得られない。

遠心ファンそのものの容量を高めれば冷却効率は高められるが、遠心ファンの大型化に伴つて軸の回転速度を高めることができます、そのために発電機出力の低下という問題が生じ、また部品の耐熱性を高めれば上述のような問題は生じない代わりに、コストアップという別の問題が生ずる。

本発明の目的は、上昇温度(発熱量)の低いものから順に冷却用空気を流れせしめるとともにその冷却用空気をステータコイルを横切つて流れせしめることにより、上述した従来の欠点を解消することの可能な車輌用交流発電機を提供することである。

かかる本発明の目的は、ロータを挿んだ状態で軸に固定せられた2つのファンを備え、その2つのファンのうちの一方を、それが回転する際空気を半径方向外方及びロータに向う軸線方向に流れせしめるよう構成し、また、ステータコアを挿んだ状態で互いに軸線方向に離隔せられた一対の吐出口をハウジングの円筒状周壁に備え、軸の回転時一方のファンにより空気がハウジングの一方の軸線方向端壁に備えられた吸入口からハウジング内空間へ導入せられるとともにその導入された空気が一対の吐出口の両方から夫々吐出せられ、また、他方のファンにより空気がハウジングの他方の軸線方向端壁に備えられた吸入口からハウジング内空間へ導入せられるとともにその導入された

空気が一対の吐出口のうちの一方から吐出せられる構成でもつて達成された。

以下本発明の実施例を添附第2図乃至第6図を参照して説明する。

第2図乃至第6図は本発明による車輌用交流発電機の第1の実施例を示し。その交流発電機は全体を20で示されているハウジングを有している。そのハウジング20は第3図に分解図で示したごとく、3つのハウジング部分21、22、23で構成され、第1のハウジング部分21は底ね円筒状の周壁部24及びその周壁部の一端を実質的に閉じる端壁25を有し、その端壁にはそれから半径方向外方に突出するフランジ部26が備えられている。また、その端壁25の中央には周壁部24と同心円關係をなして環状壁27が備えられているとともに中心孔28が備えられ、その環状壁27のまわりには周方向に互いに離隔せられた複数個の開口部脚ち吸入口29が配備されている。周壁部24の自由端には周方向に互いに離隔された複数個の切欠き31が設けられているとともに

内周面には底部32が形成されている。

第2のハウジング部分22は、第1のハウジング部分21の周壁部24と同一直径の底ね円筒状の周壁部33とそれの一端を実質的に閉じる端壁部34とを有し、その端壁部34の中央には周壁部33と同心円關係をなして環状壁35が備えられているとともに中心孔36が備えられ、その環状壁35のまわりには周方向に互いに離隔せられた複数個の開口部脚ち吐出口37が配備されている。周壁部33の自由端内周面には底部38が形成されるとともにその周壁部33の、端壁部34に隣接した所には周方向に互いに離隔せられた複数個の開口部脚ち吐出口39が形成されている。

第3のハウジング部分23は、第2のハウジング部分22の周壁部33よりも底の小さな底ね円筒状の周壁部41とそれの一端を実質的に閉じる端壁42とを有し、その端壁42の中央には周壁部42と同心円關係をなして環状壁43が備えられているとともにその環状壁43のまわりには複数個の開口部脚ち吸入口44が周方向に互いに離

隔して配備されている。周壁部42の自由端には半径方向外方へ広がつたフランジ45が備えられている。

これら第1、第2及び第3のハウジング部分21、22及び23は第2図に示されるごとく一体に組立てられてハウジング20を構成する。即ち、第1及び第2のハウジング部分21及び22は、それらの円筒状周壁部24及び33に夫々設けられている底部32及び38が、ステータ50のコア51の外周部両軸線方向端部に形成された底部に夫々嵌合せられて内円筒状壁部24及び33間にステータコア51が挿持されるよう組立てられて内部に空間を画定せしめ、その底第1のハウジング部分21の周壁部24に形成されている切欠き31はそのステータコア51の端部と密接して開口部脚ち吐出口46を画定する。また、第3のハウジング部分23はそれの周壁部41に設けられたフランジ45により第2のハウジング部分22の外面にねじ等の適当な締着具により取付けられてその第2のハウジング部分22との間に空

間を固定せしめている。こうして、第1、第2及び第3のハウジング部分21、22及び23の夫々の隔壁部及びステータコア51の外周面によりハウジング20の紙ね円筒状の隔壁が構成され、またその隔壁の両軸線方向隔壁が第1のハウジング部分21の隔壁25及び第3のハウジング部分23の隔壁42により夫々構成され、また第2のハウジング部分22の隔壁34はハウジング20の隔壁を構成している。

ステータ50は、第1のハウジング部分21の隔壁部24と第2のハウジング部分22の隔壁部33との間に挟持され且つそれら隔壁部と同心円關係をなすステータコア51と、そのステータコアのまわりに巻成されたステータコイル52とを有している。

ハウジング20の隔壁と同心円關係に軸53が延在し、その軸53は隔壁25の環状壁27内に配備された軸受54及び隔壁34の環状壁35内に配備された軸受55により回転可能に支承せられているとともに、その軸53の一端は隔壁25

11

特開昭56-53555(4)

から外方へ突出せられ、その突出せられた軸53の端部にはブーリ56が固着されている。そのブーリ56は図示していないVベルトを介してエンジンの出力軸に連結される。

ステータ50の内周面と軸53の外周面との間の空間にはそれらステータ及び軸53と同心円關係をなしてロータ60がその軸53に固着せられ、そのロータ60はボールコア61とそれに巻成されたロータコイル62とを有し、そのボールコア61は第4図に示す通り周方向に互いに離隔された複数個(図示実施例では6個)の爪63を有している。

混流ファン70は隔壁25とロータ60のボールコア61の軸線方向一端面との間で軸53に固着され、その混流ファン70は第4図及び第5図に示される通り、ロータのボールコア61の爪63の数と対応した数の複数個の半径方向外側に延在する突出部71を有するよう平らな板材をプレス加工して作られたベースプレート72と、各突出部71の一側縁に沿つて折曲げられて形成さ

12

れた羽根73とを有し、その羽根73とその突出部71との間の角度(θ)は $180^\circ > \theta > 90^\circ$ の範囲に定められている。この混流ファン70はこの角度(θ)で傾けられた羽根73を有しているがため、矢印75で示す方向への回転時空気を実質的に半径方向外方及びロータ60に向う軸線方向両方向に流れせしめる。

遠心ファン80は隔壁34とロータ60のボールコア61の軸線方向他端面との間で軸53に固着され、回転時空気を実質的に半径方向外方へ流れせしめるよう構成されている。

隔壁34と第3のハウジング部分23とで構成される空間内には環状壁43に囲繞されるように軸53の極小部91が突出せられ、その極小部91にはスリッププリング92を担持した環状絶縁体93が嵌合せられ、そのスリッププリング92にはブラシ94が摺動係合されている。また、その隔壁34と第3のハウジング部分23とで構成された空間内には田字一对のダイオードファイン95が配備され、そのダイオードファイン95は隔壁

34に直接又は間接的に取付けられている。

上述のとく構成された車輛用交流発電機の作動について以下説明する。軸53が回転せられるとその軸に固着されているロータ60、混流ファン70及び遠心ファン80が回転せられる。混流ファン70はそれが回転せられる際端壁25に設けられている吸入口29から冷却用空気を矢印96で示すようにハウジング20内空間へ導入し、その環状壁54を冷却する。その軸受54を冷却した空気の一部は混流ファン70により実質的に半径方向外方へ及び残部はロータ60へ向つて実質的に軸線方向へ流れせしめられる。半径方向外方へ流れせしめられた冷却用空気は矢印96で示すようにステータ50のステータコイル52を横切つて流れ、そのステータコイルを冷却し、その後吐出口46を通過してハウジング内空間から吐出せられる。混流ファン70により軸線方向へ流れせしめられた空気は矢印96で示すようにロータ60のボールコア61の爪63間の空間を流れ、そのロータのロータコイル62を冷却し、そ

13

14

出口 39 よりハウジング内空間から吐出せられる。

このように、本発明による車両用交流発電機においては、風流ファン 70 により生じせしめられる空気流で軸受 54、次いでステータコイル 52 を、及び軸受 54、ロータコイル 61、次いでステータコイル 52 を、また遠心ファン 80 により生じせしめられる空気流でブラシ 94、ダイオードファイン 95、軸受 55、次いでステータコイル 52 を、という上昇温度の低い部品から順に冷却せしめるので、冷却効率が高められ、各部品の温度上昇を低く抑えることが可能である。特に、発熱量の高いステータコイル 52 を横切るよりに冷却用空気を流れせしめるようにしたことにより、ステータコイルの冷却効率が高められ、それによりステータコイルの温度上昇による抵抗の増大が抑えられるので高い発電出力を得ることが可能である。また、諸部品の温度上昇も低く抑えることができるので、それら部品に高い耐熱性が要求されず、交流機そのもののコストダウンが叶え得るとともに軸受やブラシの寿命も向上せられるが

の後ステータ 50 のステータコイル 52 を横切つてそのコイルを冷却し、吐出口 39 から外部へ流れせしめられる。この風流ファン 70 により半径方向外方へ送られる空気流 86a と軸線方向へ送られる空気流 86b との流量割合はその風流ファンの羽根 73 の折曲げ角(θ) (第5図)と、吐出口 48 及び 39 の出口面積比により調節され得る。

遠心ファン 80 はそれが回転せられる端壁 42 に設けられている吸入口 44 から空気を第2図中央矢印 97 で示すようにハウジング 20 空間に導入し、その端ブラシ 94 を囲繞する環状壁 43 を冷却するとともにダイオードファイン 95 を冷却し、その環状壁 43 により案内されて端壁 34 に設けられた開口部 37 へ流入せられる。その開口部 37 へ流入せられる環冷却用空気は軸受 55 を冷却する。軸受 55 を冷却した空気は遠心ファン 80 により実質的に半径方向外方へ流れせしめられ、ステータ 50 のコイル 52 を横切つてそのコイルを冷却し、風流ファン 70 により送られてきた矢印 86b で示される空気流とともに吐

ため、交流機としての経済性が高められる。更に、ファンとして小型のものを用いることができるのと、軸に作用する負荷を軽減し、高速運転を可能ならしめ、これによつても発電機出力の向上を計ることが可能である。更に加えて、2つのファンで各々ほど等しい距離にわたつて冷却用空気を流れせしめるので、その空気に対する抵抗が軽減され、送風流量を高めることができるため、これによつても冷却性能が高められる。

第6図は本発明による第2の実施例を示し、この第6図に示された第2の実施例においては、第2図乃至第5図に開示して述べた第1の実施例の第2及び第3のハウジング部分 22 及び 23 を一体に形成せしめて第2のハウジング部分 122 としたもので、先に述べた第1の実施例と同じ部品及び部材に関する説明を省略する。

第1のハウジング部分 21 とともにハウジング 20 を構成する第2のハウジング部分 122 は第1のハウジング部分 21 の周壁部 24 と同一径の周壁部 138 と、その周壁部 138 よりも径の小さい部 139 と、その周壁部 138 よりも径の小さい部

/字加入

径小周壁部 141 とを有し、その径小周壁部 141 の軸線方向一端は周壁部 133 に一体に連結せられているとともに軸線方向他端には端壁 142 が備えられ、その端壁 142 の中央にはその端壁の一端面から軸線方向に突出する環状壁 135 と反対側の面から軸線方向に突出する環状壁 143 とが備えられ、その環状壁 143 の自由端は端壁 151 で閉じられていて内部に凹所 152 を固定している。その凹所 152 には軸受 55 が嵌合せられていて軸 53 の径小部 91 を回転可能に支承し、またその軸 53 の、その径小部 91 に隣接した所にはスリップリング 92 を保持した環状絶縁体 93 が嵌合せられ、そのスリップリング 92 にブラシ 94 が接觸させられている。また、ダイオードファイン 95 は端壁 142 の内面に直接又は間接的に取付けられている。

先に述べた第1の実施例と作動上異なる点は、第1の実施例においては、遠心ファン 80 により生じせしめられる空気流が、ブラシ 94、ダイオードファイン 95、次いで軸受 55 という順に流れ

るのに対し、第6図の第2の実施例では遠心ファン80により生じせしむられる空気流が、軸受55、ブラシ94、次いでダイオードファイン95という順に流れることだけで、他の点においては第1の実施例と実質上同じであつて、この第2実施例でも第1実施例に関して述べたものと同様の作用効果が発されるものであることは明らかである。

尚、以上述べた本発明による車輌用交流発電機の構造は単なる例示にすぎず、様々な変形が可能である。例えば、渦流ファンは平板からプレス加工したものと示したが、鋳造によつても作られ得ること、また、ブラシのない交流発電機にも本発明は適用可能などである。更に、第1及び第2のハウジング部分はステータコアを挿入した状態で組立てられているけれども、これらハウジング部分を嵌合等により直接結合せしめ、ステータコアをそのようにして構成されたハウジングの内周部に固定せしめるようにしてもよい。この場合、一方のハウジング部分の周壁の軸線方向長さを他

方のものよりも長くし、その長い周壁に両方の吐出口を設けてもよいし、あるいは両方のハウジング部分の周壁の長さをほぼ同じにしてそれら両ハウジング部分に渡つて吐出口を配備するようにしてもよい。

4.図面の簡単な説明

第1図は従来の車輌用交流発電機の長手方向概略断面図、第2図は本発明による車輌用交流発電機の第1の実施例を示す長手方向概略断面図、第3図はハウジングを構成する部材の断面分解図、第4図は第2図における線IV-IVで取つた一部省略断面図、第5図は第4図における線V-Vで取つた一部省略断面図、及び第6図は本発明の第2の実施例を示す長手方向概略断面図。

1…ハウジング、2…3…端壁、4…5…軸受、6…軸、7…ブーリ、8…遠心ファン、9…矢印、11…吸入口、12…ダイオードファイン、13…ブラシ、14…ローダ、15…ポールコア、16…ステータ、17…ロータコイル、18…ステータコイル、19…吐出口、20…ハウジング。

19.

20

21, 22, 23…ハウジング部分、24…周壁部、25…端壁、26…フランジ部、27…環状部、28…中心孔、29…吸入口、31…切欠き、32…底部、33…周壁部、34…端壁部、35…環状部、36…中心孔、37…開口部、38…底部、39…吐出口、41…周壁部、42…端壁、43…環状部、44…吸入口、45…フランジ、46…吐出口、50…ステータ、51…ステータコア、52…ステータコイル、53…軸、54…55…軸受、56…ブーリ、60…ローダ、61…ポールコア、62…ロータコイル、63…爪、70…渦流ファン、71…突出部、72…ベースプレート、73…羽根、75…矢印、80…遠心ファン、91…径小部、92…スリップリング、93…絶縁体、94…ブラシ、95…ダイオードファイン、96, 96a, 96b, 97…矢印、122…第2のハウジング部分、133…周壁部、141…径小周壁部、135…環状部、142…端壁、143…環状部、152…凹所。

21

-262-



